

いま最新の話 題 を 熱 く 検 証 !

プロダクト & サービス

Hot Acrobats



アクロバットだけじゃない 出揃ってきた「最新PDF作成ツール」

text : 秋葉けんた

ここ最近、PDFを作成するプロダクトが急に増えてきている。作成した書類を印刷するような感覚でPDFが作成できるソフトや、スキャナーを使って紙の書類を取り込むのと同時にPDFにできるというソフトまで、実に内容が幅広くなってきている。

PDFをプライベートで使う例もあるが、どちらかといえばこういったPDF作成ツールはビジネスの現場で使われるケースが多い。

政府主導によるe-Japan計画によって、官公庁でも紙の資料をデジタルデータ化して管理するようにPDFの導入と移行が進んでいる。現在、PDFは「紙の書類をデジタル化する形式」としてあらゆるシーンで幅広く活用されつつある。「デジタルスタンダード」として認識されつつあるのだ。



PDF作成ツールが最近登場してきた「わけ」



PDFを使う理由はなんだろう？

PDFとはいったい何なのだろう。
PDFは、1993年に「Adobe Acrobat 1.0」とともに発表された電子文書用のファイル形式で、それまで不可能とされていたMac OS、ウィンドウズ、UNIXなどの異なるプラットフォーム間での文書の閲覧や印刷を可能にした。その後、バージョンを重ねるごとに「電子署名機能」や「フォントの埋め込み」などの機能を強化し、企業や公的機関でも使用されるまでになった。
これほどPDFが普及した直接のきっかけは、インターネットにある。「プラットフォームに依存せず、表示も崩れない」というPDFの特徴が、あらゆる端末で利用され

ているインターネットというメディアのニーズとうまく合致したからだ。また、閲覧ソフト「Adobe Reader」（以前はAcrobat Reader）がインターネットで無料で配布されているため、誰もがすぐにダウンロードしてPDFファイルを開覧できたのも、普及した要因の1つだろう（表、116ページ）。
その結果、サイトに置いてある文書やオンラインソフトのマニュアル、あるいはメールのやり取りなどでPDFが活躍するシーンが多く見受けられるようになった。
しかし、閲覧は無料だが、PDFを作成するソフトは別途、購入しなければならないというのも一方では常識だった。そのため、PDFはもっぱら閲覧する道具であり、自分で作成したいと考えるユーザーはそれほど多くなかった。しかし現在では、フリーソフトや低価格のPDF作成ソフトが多く出回るようになり、一般ユーザーでも

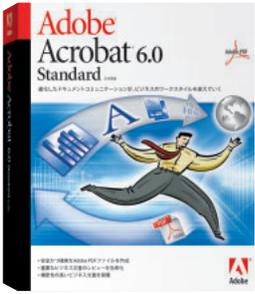
気軽に利用できる環境が整ってきた。

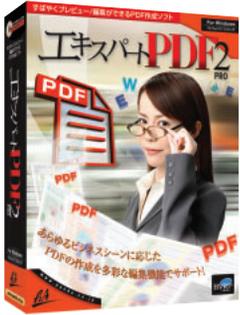


標準規格だからできた「PDF作成ツール」

これまで、PDFファイルを作成するためには、アドビシステムズの「Acrobat」が必要だった。Acrobatは3万円～6万円という高価な製品であるため、一般ユーザーにはなかなか購入しづらかった。しかし、PDFはファイル形式の規格の1つであり、その仕様は公開されているため、その規格に沿ったファイルが作成できるのであれば、とくにAcrobatにこだわらなくても構わないのだ。現在では、必要な機能だけを入れた安価な製品から機能が充実した高価格製品まで、幅広い選択肢が用意されている。
たとえば、企業で利用する場合、真っ

今月の製品一覧(PDF作成ツール)

製品名	Acrobat 6.0 Standard	いきなりPDF	pdMaker for Office
外観			
URL	http://www.adobe.co.jp/	http://www.sourcenext.com/	http://ai2you.com/ocr/
会社名	アドビシステムズ	ソースネクスト	イー・アイ・ソフト
発売日	2003年5月15日	2004年3月9日	2004年4月23日*2
価格*1	36,540円	2,079円	5,040円
主な特徴	<p>本家、本元。高機能で使いやすい。Office文書からワンクリックでPDFを作成する機能や、AutoCAD、VISIO、Projectなどからも同様にワンクリックでPDFを作成できる機能もある(プロフェッショナル版のみ)。また、プリンタードライバーとしても動作する。信頼性・安定度ともに、何の問題もない。</p>	<p>プリンタードライバー型のソフト。「いきなりPDF」に印刷処理するだけでPDFが作成できる。シンプルで、使い勝手いいソフト。</p>	<p>インストール後は、エクスプローラ上の右クリックメニューにも「PDFに変換」メニューが追加され、エクスプローラ上からもPDFを作成できる。オフィスのツールバーにアドオンされる「PDFに変換」ボタンをクリックすることで、オフィス文書から即座にPDFを作成できる。</p>
PDF書き込み速度	8.0秒	2.4秒	3.5秒
オフィスからワンクリックでPDFへ		-	

製品名	エキスパートPDF 2 Professional	FinePrint pdfFactory Pro
外観		
URL	http://www.panda.co.jp/	http://www.nsd.co.jp/share/pdfact/
会社名	ピーアンドエー	日本システムデベロップメント
発売日	2004年4月23日*2	2002年11月15日(最新版)
価格*1	8,190円(ダウンロード版:6,090円)	13,440円(ダウンロード版/ライセンス)
主な特徴	<p>プリンタードライバー型のPDF作成ソフトで、フォントの埋め込み設定やハイパーリンク、画像のJPEG圧縮などに対応する。また、ワードと統合されることで、ワードからワンクリックでPDFを作成できる機能も付加されている。ウォーターマークの挿入やパスワードによる、閲覧制限も可能。</p>	<p>プリンタードライバー型のため、アプリケーションの印刷機能を利用してPDFの作成が可能。PDF作成時にパスワード保護や操作制限を設定することで、セキュアなPDFファイルを作成可能。オンラインでの販売のほか、パッケージによる販売も行われる。</p>
PDF書き込み速度	4.8秒	2.7秒
オフィスからワンクリックでPDFへ	(ワードからワンクリック)	-

*1 すべて税込価格
*2 執筆時はベータ版を使用

先に重視されるのが最近では印刷制限や閲覧制限、パスワードによる制限などのセキュリティ機能である。これには機能が豊富に備わった高機能なソフトが導入されるだろう。また、企業や官公庁などで紙の資料のデジタル化を進めるツールとしてPDF作成ツールを導入する場合には、複数の部門や人々がかかわる業務が多いので、ワークフロー機能を備えたソフトが適している。さらに、単純にいろいろなデータをPDFにできればいいというニーズに対しては、単機能で低価格なソフトで十分だろう。



簡単処理ができるのは「プリンタードライバー型」

これらのさまざまなニーズに対応するために、各社からさまざまな製品が発売されている。

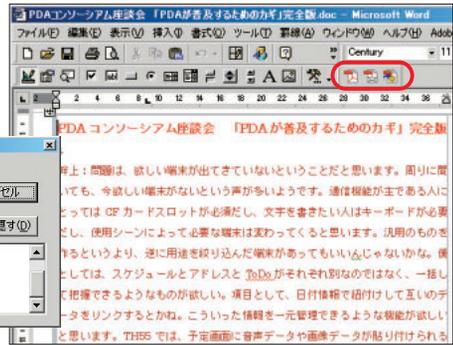
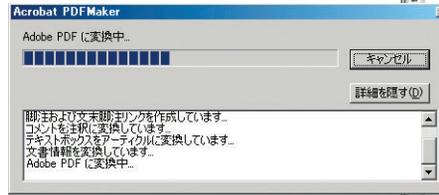
今回は、「簡単な処理でパソコン上の情報をPDF化できる」ものを中心に選定した。そのため、プリンタードライバー型のプロダクトが中心となった。

プリンタードライバー型の特徴としては、書類を作成したソフトの印刷処理(「ファイル」メニューから「印刷」を選択)を、PDF作成ツール側に受け持たせることで、PDFファイルとして書き出す。感覚的には、紙ではなくPDFファイルとして印刷するといったところだろう。

PDFを使う主な理由

1	プラットフォームに依存しない (Mac、Windows、UNIX、Linuxなどの複数の環境で閲覧・印刷が可能)
2	フォントもそのまま、レイアウトや表示が崩れない
3	画像や複数のページを1つのファイルに埋め込める
4	文字などの拡大や縮小が自在にできる
5	ファイルのサイズを小さくできるので、メールなどに添付して送りやすい (例：1.57Mのパワーポイントが430kのPDFに)
6	全文の検索が可能
7	閲覧ソフトが無料のためダウンロード数が多い

「Acrobat 6.0 Standard」で、円に囲んだアイコンをクリックして即座にPDFができる



PDFを作るには.....各社の製品を見てみよう



本家本元の「Acrobat」は高機能版

「Acrobat 6.0」は高機能で、動作も安定しているが、前述したように高価である。しかし、企業などでワークフローまで含めた機能を利用するのであれば、コストに見合った効果が期待できるだろう。また、各種のアプリケーションソフトの「印刷」メニューからのPDF作成に対応しているほか、マイクロソフトオフィス製品に機能を拡張することで、「ファイル」メニューからボタンをクリックするだけで、即座にPDFファイルが作成できる。さらに、ファイルを更新することで履歴管理も行われ、「誰が」

「いつ」「どういった変更をしたのか」なども確認できる。

「Acrobat 6.0」には、Standard版と高機能なProfessional版とが用意されている。

Professional版では、ウェブフォームの作成に対応していたり、Microsoft Visio、MS Project、AutoCADから直接PDFを作成できたりする。

しかし、高機能でなくてもいいのでさまざまなプラットフォームで閲覧できる書類を、もっと手軽に活用したいというニーズもある。このニーズに対して製品を提供しているのが、次に紹介する製品だ。



お手頃感抜群の「いきなりPDF」

「いきなりPDF」は2,079円という手頃さ。この価格帯なら、個人のユーザーでも気軽に購入できる。

ソフトをインストールすると、プリンタードライバーとして認識されるため、オフィスの文書やインターネットブラウザ、メールソフトなど、あらゆるソフトの「印刷」メニューに組み込まれる。作成した文書を開いて、「印刷」を実行するだけで、即座にPDFを作成できる。機能は少ないが、その分操作が簡単で、誰でもすぐに使えるように工夫されている。一部フォ

ントが表示されなかったり文字化けするなどの不具合が出たりもしたが、通常の利用の範囲であればとくに問題ではないだろう。



「PDFに変換」をクリック!
「pdMaker for Office」

イー・アイ・ソフトの「pdMaker for Office」は、マイクロソフトのワードやエクセルなどの拡張機能として利用でき、

「PDFに変換」ボタンをクリックするだけで、作成した書類をすぐにPDFにできる。また、姉妹品として「pdMaker for ScanPaper」も発売されている。このソフトは、スキャナーから文書をPDFとして取り込んで活用できる。

操作は、「pdMaker for Office」と同様にボタンをクリックするだけ。スキャナーがウィンドウズに対応していれば、ボタンをクリックするだけで、即座に「紙から電子データへの変換」「OCR処理」

「PDF化」という一連の作業が一括して処理される。

文字部分にOCR処理を施してあるため、文字はテキストデータとしてPDFファイルにできる。文字がテキストデータ化されるということは、検索機能が活用できるということであり、PDF化した後の利用の幅が広がる。

このOCR機能が使えらというだけでも、「pdMaker for ScanPaper」を導入する価値はある。

製品を購入するとき、もっとも大事なチェックポイントは価格だろう。Acrobat 6.0は、Standard版でも36,540円、高機能なProfessional版で57,540円(Adobe Store価格)。個人で購入するには、なかなか勇気がある高価な価格といえよう。紙に印刷する感覚でPDFを作成したいというニーズにはマッチしない価格帯である。個人用途で

ちょっとしたPDFを作成したい場合は、数千円程度でパッケージを購入したいものだ。「いきなりPDF」は、まさにそういったニーズにうってつけの製品。価格は2,079円。インストールすると「いきなりPDF」はプリンタードライバーとしてインストールされ、作成したソフトで書類を開いてプリンターの選択で「いきな

Rating
ポイント

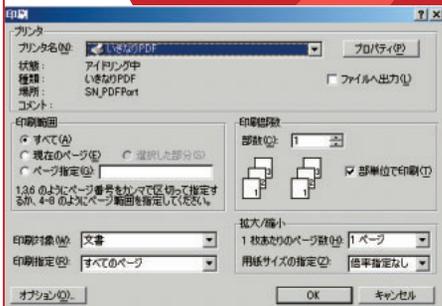


価格

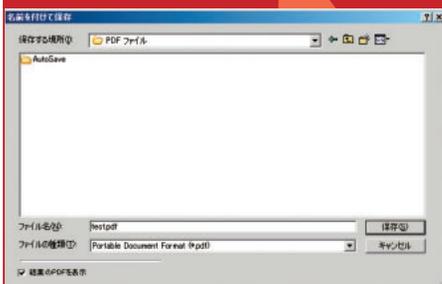
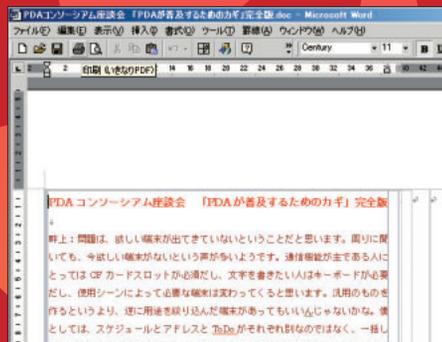
りPDF」を選び、印刷ボタンを押すだけでPDFファイルが作成できる。特に設定などもいらない。とにかく今まで作成して紙に印刷していた書類をPDF化するのに最適だ。

一方、「pdMaker for Office」は、マイクロソフトのワードやエクセル、パワーポイントの「アドイン」として利用できるという特徴がある。ツールバーの「PDFの作成」ボタンをクリックするだけで、作成中の書類をすぐにPDF化できる。また、多くのファイルでは、「エクスプローラ」を右クリックしてPDFファイルを作成することも可能。

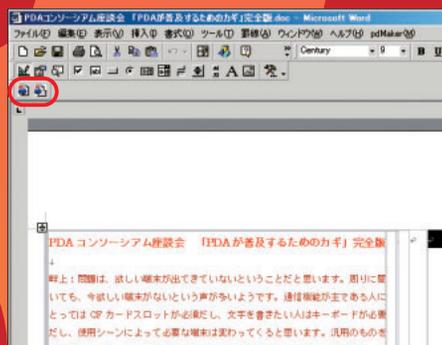
価格は、パッケージ版で5,040円。「いきなりPDF」と比べると若干高額だが、ボタンをクリックするだけのインターフェイスがわかりやすく、購入後の使いやすさを考慮すると妥当な価格帯だといえるだろう。



「いきなりPDF」のPDFへの書き込み方法。作成した文書を開いて「ファイル」「印刷」でプリンタ名を選択してPDFへ



「pdMaker for Office」のPDFへの書き込み方法。円で囲んだアイコンをクリックしてPDFへ





「透かし」をPDFに埋め込める
「エキスパートPDF2」

ピーアンドエーの「エキスパートPDF2」は、ウォーターマーク(透かし)などユニークな付加価値を付けることによって製品の魅力を広げた。ワードで作った文書をPDFに変換するには「Create PDF」ボタンをクリックするだけでいい。アプリケーション自体に変換ボタンを組み込むため、操作がシンプルで使いやすい。オフィス製品以外のアプリケーションで「エキスパ

ートPDF2」を使用する場合は、「いきなりPDF」と同じく、プリンター機能を選択して印刷するのと同じ手順でPDFへの変換作業を行う。またセキュリティ機能も充実している。

Standard版とProfessional版の2種類があるが、Professional版はStandard版に加えて、複数のファイルを1つのPDFファイルにまとめることができる。また、メモ、ハイライト、取り消し線といった多彩な注釈ツールを備えている。

PDFをビジネスで活発に利用するというニーズがあれば、Professional版を検討

してみてもいいだろう。



セキュリティ機能を重視した
「FinePrint pdfFactory Pro」

日本システムディベロップメントの「FinePrint pdfFactory」は、書類を作成したソフトの印刷機能を使ってPDFファイルに変換する。

機能をPDFファイル作成に特化した「FinePrint pdfFactory」と、セキュリティ機能やURLのリンク設定機能を備えた「FinePrint pdfFactory Pro」の2種類が

Acrobat 6.0 Standardは、印刷時に表示されるウィンドウから設定することで、128ビット暗号化や電子署名、パスワード保護などを設定できる高機能なソフトとなった。これらの制限をかけることで、もし外部に書類が流出したとしてもパスワードがなければ開くことができない。さらに暗号化されているため、ファイル自体を覗いても意味をなさない情報が取れない。

印刷や編集をパスワードによって制限することも可能だ。しかし、ほかにも同様の機能が付加されているものもある。

「FinePrint pdfFactory Pro」は、暗号化やパスワード保護だけでなく、PDFファイルのデータのコピー制限、印刷制限、編集制限などセキュリティ機能が充実している。これらの制限は、印刷時

Rating
ポイント **2** セキュリ
ティー

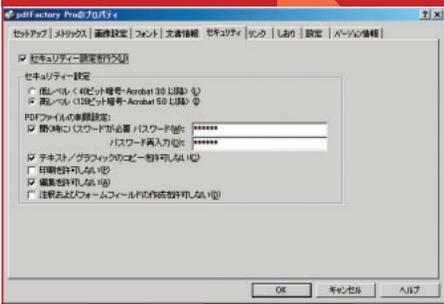
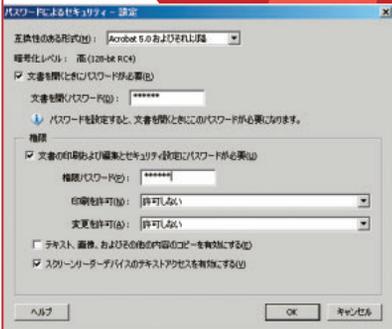
に表示される「FinePrint pdfFactory」の操作ウィンドウから行う。

印刷制限を活用すれば、閲覧させたいけれども印刷してほしくないといったデータも作成可能だ。

また「エキスパートPDF2」でも、最大128ビットの暗号化やパスワード機能がある。さらに編集や印刷の制限なども設定できる。ビジネスでよく使われる「コピー不可」「持ち出し厳禁」といったウォーターマーク(透かし)をPDFに埋め込めることができる。

ビジネスで活用するのであれば、パスワードを入力すれば印刷できるPDFよりも、はじめから印刷をできなくした書類を作りたいケースも多いはずだ。

セキュリティ機能だけに関して言えば、「FinePrint pdfFactory Pro」「エキスパートPDF2」両製品のポテンシャルは高い。



「Acrobat 6.0 Standard (左上)」「FinePrint pdfFactory Pro (左下)」「エキスパートPDF2 (右)のセキュリティ設定画面。印刷や編集の権限を詳細に設定できる

ある。「FinePrint pdfFactory Pro」は、暗号化やパスワードでデータにアクセスできないようにしたり、印刷制限やクリップボードへのコピーを制限できたりするなど、充実したセキュリティー機能が特徴的だ。

日本システムディベロップメントは、コンピュータシステムの構築やシステム開発を行う企業のために、ビジネス市場のニーズをつかんだ製品を投入してきた実績がある。PDFファイルのセキュリティー機能を重視して開発したという経緯からも、同社のPDFを使った本格的なビジネス利用というビジョンが見えてくる。

Acrobat 6.0は、PDFを開発したメーカー製品だけあって、PDFの機能をフル活用できる。標準的な機能を搭載しているのはやはりこの製品だ。

「エキスパートPDF2」は、ビジネスシーンでよく見られるゴムスタンプの貼り付け機能も備えているのがユニークだ。「pdMaker for Office」は、フォントの埋め込みや画像の圧縮機能に優れているので、画像がたくさんあるようなPDFでも、画像はきれいなまま、ファイルサイズを小さくできる。

このような付加価値のある製品が増えることで、PDF作成ツール市場の活性化が期待できる。

Rating ポイント 3

付加機能



さて、Ratingであなたに合ったお買い得な製品は？.....

現在、PDFを作成するツールはいろいろと出揃っているので、「自分がどういった用

途で利用するのか」「セキュリティー機能は必要か」など、利用シーンを含めてじっくり

と考える。

「総合的な機能」が「必要な機能だけ」か、価格の高さ・安さだけでなく、作業効率を考慮した場合にどちらが得なのか、きちんと比較して検討する必要があるだろう。

Acrobat 6.0 Standard http://www.adobe.co.jp/ アドビシステムズ	
 メリット	規格元が提供しているソフトだけに、安定度が高い。また、最新機能を持ち込んで1つでなんでもできてしまうといった状況だ。
 デメリット	実売価格が高い。他のプロダクトと比べると驚くほどの価格差だ。ニーズにマッチしている人にはおすすめできるが、もう少し機能を絞込んだ導入版があってもいい。
お買い得度： 	

いきなりPDF http://www.sourcenext.com/ ソースネクスト	
 メリット	なんといっても価格が安い。シンプルな機能で使い方を迷うこともない。とりあえずPDFを作りたいというニーズに最適。
 デメリット	機能をPDF作成に絞りに絞っているため、ちょっとした便利機能が一切搭載されていない。セキュリティーにも配慮していないので、ビジネスでは使いにくいソフトかもしれない。
お買い得度： 	

pdMaker for Office http://ai2you.com/ocr/ イー・アイ・ソフト	
 メリット	オフィス文書からワンクリックでPDFを作成できるのはうれしい。また、一気に大量のPDFを作るための「バッチ処理」にも対応し、ビジネスで使えるPDF作成ソフトになった。
 デメリット	アプリケーションによっては正常にPDFに変換できない場合もあるようだ。機能的には十分なので、このあたりの信頼性を上げていただきたい。
お買い得度： 	

エキスパートPDF 2(Professional版) http://www.panda.co.jp/ ピーアンドエー	
 メリット	セキュリティー機能が豊富なソフト。暗号化だけでなくウォーターマークを挿入できる。ビジネスでもプライベートでも、活用シーンが広がる。
 デメリット	「エキスパートPDF 2(Professional版)」のパッケージ価格が8,190円と、他のPDF作成ソフトに比べて高価。でも、付加価値が付いているので最適な価格設定なのかも。
お買い得度： 	

FinePrint pdfFactory Pro http://www.nsd.co.jp/share/pdfact/	
 メリット	セキュリティー設定だけでなく、URLのリンク機能やしおり作成機能が追加されている。
 デメリット	販売方法が10ライセンス以上のパッケージ販売か、ダウンロード販売のみとなる。
お買い得度： 	

フリーソフトやPostScriptファイルからもPDFが作れる!

PDFを作るだけなら、フリーソフトで使えるものもある。PrimoPDF [URL](http://www.primopdf.com/) は、プリンタードライバーとして動作し、各種アプリケーションからPrimoPDFに印刷することで、簡単にPDFを作成できる。

[URL](http://www.primopdf.com/)

PostScriptファイルからPDFを作る方法もある。「Apple Color LaserWriter 12/600J」などのPostScriptプリンターを登録して、出力設定を「File」にすることで、印刷データをPostScript形式のファイルを取得する。その後、得られたファイルをGhostscriptで処理することでPDF化できる。少し手間はかかるが、比較的きれいなPDFを作成できる。



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp